

人々と地球のために、私たちの世界を転換させよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な開発目標



2030年までに貧困に終止符を打ち、持続可能な未来を追求する—大胆かつ新しい開発目標が9月25日、ニューヨークの国連本部で開催された「持続可能な開発サミット」において、193の加盟国による全会一致で採択されました。この重要な開発目標は、国際社会と各国政府が今後15年間の繁栄と福祉の共有を促進するための出発点となります。

サミットで成果文書として採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、「あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」「気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る」など17の持続可能な開発目標(SDGs)と169項目のターゲットなどで構成されています。

2000年のミレニアム総会で採択され、今年いっぱい達成期限を迎えるミレニアム開発目標(MDGs)が主に開発途上国の貧困の削減などを指すものであったのに対し、SDGsは先進国も対象にした、まさに“グローバルな目標”です。

貧困に終止符を打つためには、経済成長を実現し、教育や保健、社会保障、雇用機会を含む幅広い社会的ニーズに対応する一方で、気候変動や環境保護にも取り組む計画が必要です。また、不平等やインフラ、エネルギー、消費、生物多様性、海洋、産業化といった課題への取り組みも欠かせません。持続可能な未来に向けて世界を転換させるためには、国や政府だけでなく、地球に暮らす私たち一人ひとりの意識と行動が求められています。

持続可能な開発サミット、開催

～人々と地球のために、私たちの世界を転換させよう～



サミット開幕に先立つ9月22日夜、国連の事務局ビルと総会議場ビルには「持続可能な開発目標」のアイコンが10分間にわたり投影された ©UN Photo/C. Pak

9月25日から27日にかけて開催された持続可能な開発サミット。今後の世界のあり方を方向づける極めて重要な機会とあって、150カ国以上の首脳らが参加しました。

サミット開幕初日の25日、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択に先立ち、フランシスコ第266代ローマ教皇が国連総会において演説を行い、持続可能な開発、気候変動などの地球規模の課題の解決に向けた人々の行動を促しました。

「重要かつ建設的な歴史的成果が実を結ぶよう、時代は私たちに、社会の新しい取り組み方を生み出す行動に重点を置くことを求めています。その未来を築くためには、私たちは「課題」を先送りにはできないのです」教皇はこのように語り、人々の結束を呼びかけました。

サミットのオープニングで演説を行った潘基文（パン・ギムン）事務総長は、「新たな2030アジェンダは、あらゆる場所のす

べての人々に対するリーダーたちの約束です。より良い世界をめざす普遍的かつ統合された、変革をもたらすビジョンなのです」と述べ、アジェンダが「誰も置き去りにしない（leave no one behind）」約束であることを強調しました。

同じくオープニングで、ノーベル平和賞受賞者であるマララ・ユスフザイさんが193



目標 1

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



目標 2

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



目標 3

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



目標 7

すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



目標 8

すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する



目標 9

レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る



目標 13

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



目標 14

海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



目標 15

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



©UN Photo/M. Garten

人の若者たちとともに、世界のリーダーに向けて「すべての子どもへの安全で質の高い教育を約束して欲しい」と訴えました。

「国連に集う私たち全員が、教育と平和という目標に向かってひとつになれることに希望を持っています。そして、この世界を“ベターな”場所にするだけでなく、“ベスト”な場所にしたいと願っています。教育は希



©UN Photo/M. Garten

望であり、教育は平和です」

各国首脳もサミットでステートメントを行っています。日本の安倍晋三総理大臣は27日に演説を行い、女性、健康、防災などの主要分野に焦点を当てた野心的なプランを打ち出したことを歓迎した上で、日本がアジアのみならずアフリカを含むその他の国々のインフラ投資などに主導的な役



©UN Photo/K. Haughton



©UN Photo/K. Haughton

割を果たしていくことを表明しました。

持続可能な開発サミットにはこのほか、ユニセフ親善大使のデイビッド・ベッカムさん、Facebook（フェイスブック）創業者のマーク・ザッカーバーグさんら多数の著名人が駆けつけ、「持続可能な世界」への転換に向けた新たな出発に決意を示しました。



目標 4

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



目標 5

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



目標 6

すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する



目標 10

国内および国家間の不平等を是正する



目標 11

都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする



目標 12

持続可能な消費と生産のパターンを確保する



目標 16

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



目標 17

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

持続可能な開発目標



世界各地で“UN70”

国連創設 70 周年を祝うイベントが次々と



©UN Photo/C. Pak

◆ニューヨークの国連本部では、創設 70 周年を記念する特別展示「われら人民：ノーマン・ロックウェルの国連」が 6 月 30 日から 9 月 15 日まで開催されました。

国連広報局と国連財団の協力による同展では、米国を代表する画家ノーマン・ロックウェル氏による 33 のオリジナル作品を展示。様々な人種の人々と当時の安保理メンバー国の代表らを描いた木炭画“United Nations”（1953 年）や、油彩画“Golden Rule”（1961 年）もお目見えしました。後者は、創設 40 周年を記念してナンシー・レーガン米大統領夫人が国連に寄贈したモザイク画の基になったことでも知られます。

「人々の顔に浮かぶ不安、期待、夢。その表情は国連がつくり出すものへの希望に満ちている」展示を紹介する映像の中で、ヤン・エアソン副事務総長は語っています。

◆国連初の「デジタル大使」を務めるエリックス（Elyx）は、フランスで人気のキャラクター。ベルギーのブリュッセルにある国連地域広報センター（UNRIC）とともに、これまでも「世界人権宣言」や国際デーのプロモーションを行ってきました。

国籍、人種、性別、そして何より言葉を持たないエリックスは、まさに“ユニバーサル”な存在そのもの。そんなエリックスが、国連創設 70 周年を記念した「70 日間世界一周」の旅を展開。パリのユネスコ本部を出発したバーチャル・トリップは、世界各地をめぐり、日本では東京、広島、長崎を訪れ、平和を祈念する想いにじかに触れました。

エリックスの旅は国連デーの 10 月 24 日、ニューヨークの国連本部でのゴールを目指して続きます！

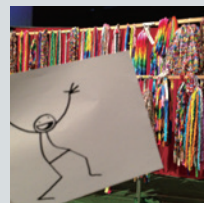
◆9 月 21 日は国連の定める国際平和デー。国連本部では毎年、事務総長が総会議長、国連ピース・メッセンジャー、各国の国連常駐代表らの出席のもと、世界平和を祈って日本の人々から国連に寄贈された「平和の鐘」の鐘打式を行います。

今年の国際平和デーには、日本・国連親善大使、ユネスコ親善大使、ならびに日本国連協会会長を務める裏千家第 15 代家元 千玄室（せんげんしつ）大宗匠による「国連平和祈念 70 周年献茶式・和合の茶会」が、潘基文（パン・ギムン）事務総長らの出席のもとに行われました。「茶会の美しさは、そのシンプルシティにあります」と事務総長は述べ、世界は数多くの複雑な課題に直面しているものの、「私たちは人権、公正さ、平和という共通の価値観に基づき、連帯して行動するのみです」と呼びかけました。



©UN Photo/E. Debebe

特別展示「われら人民：ノーマン・ロックウェルの国連」にて、ガラッチ広報担当事務次長（左）、エアソン副事務総長（右から 2 番目）ら



国連初のデジタル大使、エリックス。広島の平和記念式典で千羽鶴と



©UN Photo/E. Schneider

裏千家第 15 代家元の千玄室（せんげんしつ）大宗匠は「一盃（いちわん）からピースフルネスを」と、世界各地で平和を祈念して茶会を催す

日々の緻密な努力が政治を動かす

国連本部の政治局 (DPA) アジア太平洋州部の山下真理部長は 2012 年 11 月、初のアジア出身者としてこのポストに就きました。政治局はまさに国連の大黒柱。その仕事量や責任の大きさを物ともせず、エネルギーに仕事をこなし山下部長の姿に憧れる若手の職員も少なくありません。国連広報センター (UNIC) 前所長を務めたことから、「東京ベースでアジア諸国の状況をフォローしていたこともあり、アジアを身近に感じますし、些細な動きにも敏感になります。UNIC での経験が今の仕事に役立っています」と語ってくれました。

国連政治局
アジア太平洋州部
部長 (インタビュー当時)

山下真理



フィリピンのミンダナオ島にモロ・イスラム戦線 (MILF) 最高指導者のムラド議長を訪問 (左端)

平和構築に力を入れ、政治状況を分析

政治局の優先課題は紛争予防、紛争の悪化を防ぐ早期警報、そして緊張緩和です。政治的解決に力を注ぎ、紛争予防に取り組み、予防措置を講じることに力を入れています。国や地域の安定には国内政治の安定、和平プロセスの執行、国内少数民族の政策決定過程への参加、女性のエンパワーメントなど多くの要因が影響します。事務総長がタイミングよく声明を出したり、国家首脳レベルで電話会談を行ったり、時には国連高官が現地に赴くことで直接緊張緩和に貢献することができます。予防外交の一側面ですが、これを可能にするのが日々行っている国連内部用の背景説明資料の作成、状況分析、モニタリング。特に事務総長や政務担当の事務次長などに提出する資料の作成やハイレベル会談の準備は極めて重要な仕事です。

開発途上国では国連諸機関が明確な任務を持って開発援助を行っています。一方、特に独裁政権や軍事政権などを経た国の複雑な移行への支援は、政治局がリードしています。世界各地で培ってきた国連支援の経験と当事国のユニークな環境、歴史的背景などを十分に理解した上で国全体の移行を支援するのです。政治局と国連開発計画 (UNDP) 共同の取り組みとして、平和と開発に関するアドバイザーの派遣があります。このポストは、政務と開発について国連常駐調整官に包括的なアドバイスを行

い、特に平和維持活動や政治ミッションがない場所では、ここ 10 年で大きな成果を収めています。さらに、2 年ほど前から国連全体で優先的に行われている Human Rights Up Front (人権を最優先に) を現場に浸透させていくことも重要な役目です。

やりがいを感じる瞬間

安保理や総会の委任をもらって何百、何千という人を派遣してオペレーションを行う平和維持活動と違い、アジアでの政治局の仕事は地味で忍耐が必要です。常に政府関係者との信頼醸成が重要で、国連と関わることの付加価値がどこにあるのかをきちんと示さなければなりません。全て政府の合意をもらった上で進めなければならない、チャレンジだと感じることも多い一方、うまく行くとやりがいを強く感じます。例えばスリランカについては、紛争後、国連との関係は良好とは言えませんでした。政権交代後すぐに政治局トップである事務次長を連れて現地に赴き、平和構築の話し合いを持つこ

とができたのは成功だったと言えるでしょう。国際社会との関係修復を望む意思が政権側に出てきたことも功を奏しました。

国連のワーク・ライフ・バランス

「キャリア志向が強いと仕事優先になり、結婚や出産のチャンスを逃してしまう」と心配する方は少なくないでしょう。でも、振り返って感じるのは、国連のキャリアは長期的に考えればよく、途中で多少スローダウンしてもその後のキャリア形成に十分間に合うということです。人生は長く、キャリアを 10 年、20 年単位で考えると、結婚や出産の余裕も出てくるものです。ぜひ多くの方に子育てを経験してほしいと思います。子どもの目を通して社会を見つめることは、人間としての社会勉強になりますから。

1988 年上智大学法学部国際関係法学科卒業。米フレッチャー法律外交大学院修了後、90 年に国連事務局情報収集調査室の政務官補佐として国連に加わる。選挙支援、アフリカ、東南アジア担当政務官、国連広報センター (東京) の所長を歴任。2012 年 11 月より現職



インドネシアのヨガカルタ島を訪れ、伝統の布製品“バティック”を用いたプロジェクトを視察



エリアソン副事務総長に同行し、韓国と北朝鮮の非武装中立地帯を訪問 (2013 年)

デジタル映像から見る日本と国連

国際社会を生きる 私たち一人ひとりにできること

2016年は日本の国連加盟60周年です。日本の国連での歩みが、このたびわかりやすい形で皆さんの手に届くようになりました。日本と国連との関わりを記録した貴重な映像がデジタル化され、動画サイトで閲覧できるようになったのです。

デジタル化プロジェクトは国連広報局、国連広報センター、そして日本政府との三者によるコラボレーションで実現したのですが、日本が国際社会の一員として世界の平和と安全に貢献していく軌跡をたどることができる、大変興味深いものになっています。

このデジタル化映像のお披露目として、日本政府と国連広報センターとのパートナーシップで「デジタル化映像から見る、日本と国連のあゆみ ～Think Globally, Act Locally～」と題する記念フォーラムを、模擬国連の活動などを通じて将来国際社会での活躍を目指す大学生らを対象に、8月から9月にかけて神戸、仙台、別府の3カ所で開催しました。

「社会に出た時、『これをやりたい』という思いがあったら、どんな困難があってもその思いを貫いてください。自分のこだわりを大切にしていってください」根本 かのる国連広報センター所長は基調講演で、若者たちのことを社会を変えるパワーを持ったchange maker と称し、これからの時代を

担っていく会場の学生たちを激励しました。

また、地方開催のフォーラムでは毎回、世界的な視野を持ちながら自分の居場所でアクションに移している政府・自治体・市民団体・国連機関の実務家と学生代表とによるパネル・ディスカッションを行い、インターンシップやイベント参加、ビジネスチャンスの拡大など、お互いの連携の可能性につながる話し合いをすることができました。活動する分野は違っても、「国際社会を生きる」という点では同じであり、直面した課題について考え、小さなことから行動に移すということはまさに“Think Globally, Act Locally”そのものです。対外的な国際化にも軸足を置きつつ、外国人定住者の課題や環境問題、限界集落での持続可能なコミュニティづくりなど日本国内のグローバルな問題に目を向け、一人ひとりに何ができるかを投げかける機会となりました。

9月18日にはお披露目の総括として東京で各国の大使館関係者やマスコミ、大学関係者らを招いて記念フォーラムを行い、日本

の強みを活かした国連外交について考えました。今回デジタル化された映像のハイライト集からこれまでの軌跡を振り返るとともに、フォーリン・プレスセンター理事長で元国連事務次長の赤阪 清隆さんの基調講演、そして内閣参与を務める谷口 智彦慶応義塾大学大学院教授、UNICEF 東京事務所の平林 国彦代表、難民を助ける会理事長の長 有紀枝立教大学教授によるパネル・ディスカッションを通じて、これまでの日本の国連への貢献と今後取るべき方向性について意見交換を行いました。

特別ゲストの緒方 貞子元国連難民高等弁務官からは「世界にこんなにも難問が山積している中で、shrinking Japan にならないよう私たちは阻止しなければならない。どう立ち向かっていくべきか、ここにいる一人ひとりに自分にできることを考えてもらいたい」と激励のメッセージをいただきました。

*マスコミの方々にはニュースの素材としてお使いいただけますので、ご関心のある方は国連広報センターまでお問い合わせください。



国連と日本の関わり

国連アーカイブ映像資料

デジタル化映像には、日本の国連加盟時の国連総会、国連本部での日本国旗掲揚、日本国際連合協会から寄贈された平和の鐘の式典など、貴重な歴史の瞬間が含まれています。映像は以下の Youtube チャンネル「Japan UN Archives」でご覧いただけます

https://www.youtube.com/channel/UCLwR8v_F8Ye7BziAvxz2_eQ



国連と日本の関わりを促めたこれらの映像は



東京でのお披露目では、大使館関係者やマスコミ、大学関係者らを招き、日本の強みを活かした国連外交について意見交換を行いました

TOPICS@UN

UN Women 日本事務所が文京区にオープン



ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関「UN Women」の日本事務所が8月30日、文京シビックセンター内にオープンしました。開所式には安倍晋三 内閣総理大臣、成澤廣修 文京区長、プムズレ・ムランボ＝ヌカ UN Women 事務局長らが出席。日本政府の掲げる「女性が輝く社会」の実現に向けて、より緊密な連携が期待されます。本部をニューヨークに置き、世界に89の国別事務所を構えるUN Womenにとって、日本事務所はアジア地域で唯一のリエゾンオフィスとなります。

TOPICS@UNIC

軍縮で見た日本の学生の底力




軍縮に関する国連ブックレットの日本語訳版『軍縮のためのアクション：あなたにもできる10のこと』が、東京大学教養学部特任准教授の岡田晃枝 准教授の監修のもと、東大生グループの手によって完成しました。若者向け、「軍縮への関心を高め行動を起こすことで、暴力を減じる一助となってほしい」という国連の願いから制作された冊子を、学生たちが8カ月かけて日本語化。平和式典に出席するため訪日したキム・ウォンス国連軍縮担当上級代表代行に対し、岡田准教授と学生の皆さんから日本語版冊子が引き渡されました。

TOPICS@UNIC

国連ビジネスに関心のある方、必読です

今、世界各国の国際企業から、国連を取り巻くビジネスに厚い視線が注がれており、積極的な企業参加が広がりつつあります。しかし、日本企業の参加はあまり進んでおらず、国連システムの調達総額



 国連事務局の調達活動に参加するために

約1兆6,083億円(2013年時点)のうち、わずか0.8%に相当する約123億円の受注にとどまっている状況です。まずは多くの方に国連でのビジネス機会を知っていただくこと、このたび国連事務局調達部発行の冊子“Doing Business with the United Nations Secretariat”の日本語版をつくりました。国連の調達活動に関心を持つ企業に向けて、国連ビジネスの概要、企業登録、競争入札などをわかりやすく説明しています。

TOPICS@UNIC

あいち国際女性映画祭で「女性大使ミーティング」

日本で唯一の国際女性映画祭である「あいち国際女性映画祭」において、国連広報センター連携企画「女性大使ミーティング」を9月2日に開催しました。今年が国連創設70周年、第4回世界女性会議と同映画祭の20周年であることを記念して行われたものです。ディーパ・ゴパラン・ワドワ駐日インド大使、アンドリヤナ・ツヴェトコビッチ駐日マケドニア旧ユーゴスラビア共和国大使、そしてミャンマーの作家、ティン・ティン・ウィン(ジュー)さんをパネリストに迎え、根本かおる所長を進行役に「男女平等と女性のエンパワーメントが世界を変える!」をテーマに熱

いディスカッションを展開。女性同士のつながる力と共通点を強く感じたセッションとなりました。





国連には様々な国籍の、様々な才能を持った同僚が多く働いていますが、それを再確認したのが今年8月、東京・広島・長崎で行われた国連合唱団による「平和と希望のコンサート」でした。8月9日の原爆投下の日に行われた長崎公演では、国連事務総長の名代として訪日したキム・ウォンス事務次長（軍縮担当上級代表代行）とともにコンサートで登壇する機会を得ました。



「国連合唱団」

1947年にニューヨーク国連本部の職員により設立された「国連合唱団」は、様々な国籍の団員から構成され、音楽という世界共通の言語を通じて平和と自由の重要性を訴えるため、アメリカ、イギリス、ブラジル、南アフリカ、北京など世界各地に足を運び、音楽交流活動を積極的に行っています。

4度目となる今回の来日公演では、13の国出身の20数名の国連職員たちが、忙しい仕事の合間を縫って練習を重ねたアメリカ、ペルー、イタリア、ロシア、イギリス、フランス、中国、中東、そして日本の歌をその国の言葉で届けました。

肌の色の違う国連の仲間たちが、色とりどりの民族衣装で、いろいろな言葉で歌う姿は、まさに「United Nations」。

さらには加藤登紀子さんをはじめとする日本のアーティストの皆さん、そして地元のコーラスグループの方々と共演し、人と人をつなげるハーモニーの力を見せてくれました。

被爆70周年祈念、国連創設70周年記念の荘厳かつ心温まるコンサート、広島では



写真提供・国連合唱団長崎講演実行委員会

8月6日、長崎では8月9日の原爆投下のその日に行われました。

長崎公演では、国連事務総長の名代として広島・長崎の平和記念式典でメッセージを届けたキム・ウォンス事務次長がフィナーレで挨拶に立ちました。胸を打つコンサートを地元のコーラス・グループらとともに手作りで準備してくださった実行委員会の方々に感謝の気持ちを伝えるとともに、国連合唱団のメンバーに対して「皆さんが歌う姿をニューヨークで目にする機会はこれまでもあったが、ここまでの実力とは知らなかった！皆さんのことを誇らしく思う」と激励の言葉をかけました。

私はキム事務次長の横で、彼が感動で興奮しているのを感じながら通訳していました。

キム事務次長に同行する形で広島・長崎の式典に参列し、日本出身の国連職員として背筋が伸びる気持ちになりましたが、このコンサートでは、ダイバーシティの素晴らしさと音楽の「力」を実感。忘れがたい公演となりました。

Contents

P2-3 人々と地球のために、私たちの世界を転換させよう

P4 世界各地で"UN 70" 国連創設70周年を祝うイベントが次々と

P5 日々の緻密な努力が政治を動かす：山下真理 アジア太平洋州部部長

P6 デジタル映像から見る日本と国連

P7 TOPICS@UN：UN Women 日本事務所、軍縮ブックレット、国連ビジネス、あいち国際女性映画祭

P8 根本かおる所長の国連だより



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学本部ビル 8階

TEL：03-5467-4451 URL：http://www.unic.or.jp